

子どもたちとともにヒロシマの教室から 教育のつどいヒロシマ2023 紡ぎだす平和と民主主義

11月18日(土)、『教育のつどいヒロシマ2023』が広島市の尾長小学校とロードビルを会場に開催されました(同実行委員会主催)。問題別・教科別分科会と全体会(記念講演=オンライン併用)にのべ155人が参加し、日ごろの実践と研究を交流し、おおいに学び合いました。

福山支部からオンラインで参加した若い仲間から感想が寄せられましたので紹介します。



昨年の夏の『TANE! (全国青年教職員学習交流集会)』で平井先生の話をも初めて拝聴しました。どこからそのパワーは生まれるのだろう…。『教育と愛国』の書籍版を拝読し、自分が生業としてきた教育は、政治の影響を非常に受けるものであり、政治に無感心では、教師としての信念を全うした仕事はできないと強く感じました。

本日の話でも、同様のことを感じるとともに、教師として大切にしたいことはシンプルであるとも思いました。やはり、教師は授業で勝負。授業を通して「ひと」を育てること。その為に、教師自身も「ひと」として学ぶこと。子どもたちから育てられること。これに尽きると感じました。

そして、自分が授業づくりで大切にしたいことは、「授業を受けた子どもたちの姿を検討すること」「自分事として捉えるために『ひと』の人生や思いに着目すること」「過去と今、『ひと』と『ひと』、地域と地域をつなぐこと」という3つだと整理しました。

昨今、教育の世界は闇が深いと感じるに至っています。(略)…教師を守ってくれるのは誰か…。(オンラインで講演を聞くことができ有難かったです。)



昨年が続いて仲間が集まってのつどい開催に、「みんなが集まると元気が出るよね!」との声がたくさん聞かれました。子どもたちとの新たな出会いが待ち遠しくなるようなつどいでした。

ご参加のみなさん、支えてくださった共同研究者のみなさん、お疲れさまでした。【詳細は **ZENKYO 広島** を同封しています】

働く仲間の団結で

第34回福山地区労会議定期大会 開催

生活と権利、平和と民主主義を守りましょう！

福山地区労会議は11月24日（金）、市民参画センターにおいて第34回定期大会を開催し、加盟する各組合からほぼ全員の代議員の参加で大きく成功しました。

福山地区労会議には全教福山をはじめ、建設交運（トラック運輸など）、年金者、国労（JR）、医療、福祉保育、国家公務員など多くの分野の仲間（約700人）が加盟しています。

大会は**北川代議員（全教福山書記長＝写真左下）**を議長に選出した後、中藤議長のあいさつ、小林事務局長（全教福山副委員長）の議案提案につづいて、討論に入りました。

今年は（既報のように）何と言っても建交労興国産産業支部（トラック輸送関係者）という新しい組合の結成と地区労会議加盟が大きな話題になりました。討論に立った門田委員長（写真右）は、「会社のパワハラと何年もたたかいつづけてきました。近日中に5回目の団体交渉も予定しています。団結は力！まとまるのが力!!です。みんなで集まって働きやすい職場をつくっていきます！」と力強く述べ、大きな拍手に包まれました。

全教福山からは**船石代議員（全教福山委員長＝写真右）**が討論に立ちました。船石さんは“教育に穴があく”ことでどんなことが起こっているのかを紹介しながら、「格差の拡大とも相まって、先生も子どもも居づらい学校になっています。学習内容も難しくなっていて“公教育つぶし”ではないかと思えます。平和やパレスチナの問題が語りづらいような息苦しい空気もあります」と述べ、「やはり大元の政治を変えないといけないのではないのでしょうか」とまとめました。



（← 議長の北川さん）

さまざまな分野で働き、たたかっている労働者の状況をリアルにつかむと、子どもたちの置かれている環境（生活）が見えてきます。

ふだん、学校で何気ない顔で生活している子らが「こんなに厳しい実態を背負って教室に来ている…」ということがわかります。そして、そこに父母・保護者との共同の可能性も見えてきます。教育の出発点もまたここにあるのではないのでしょうか…あらためて感じました。

全教共済の西田さん（写真左）から贈呈されました！

本当に **キットカット** 50個 届きました！

小林さん（駅家南中分会）が職場のT先生に「全教共済ってとってもお得ですよ！」とパンフレットを渡したT先生、数日後に加入されました！するとT先生と小林さんそれぞれに全教広島共済会から本当にチロルチョコ50個が届きました（疑っていたわけではありませんが💧）。T先生「小さい子がいるので大喜びです！」とのこと。みなさん、職場での宣伝をお願いしますね！



ギリギリの厳しさの中で奮闘しています！

職場訪問から見えてくる福山の異常な実態

この秋、全教福山は、舩石委員長、北川書記長、織田共済担当専門委員を中心に職場訪問と新採対話を進めています。その情報の一部を紹介します。

仲間のみなさんがギリギリの厳しさの中で奮闘していらっしゃる姿が浮き彫りになっています。全教福山は県本部とも協議しながら、先の確定県教委交渉でもこうした実態を当局に伝え、打開を求めました。



● 「学びの変革」が職場を追いつめる—A中学校

昨年度末、国語科(中堅で正採)が退職された。後任の非常勤の先生も1学期末から休みはじめ、そのまま辞職された。9月中旬に後任が決まるまで、空白状態の2週間は自習と他教科の振替でしのいだ。相次いだ辞職に共通した要因があるとすれば、学年の生徒指導の大変さとか、「学びの変革」がもとになって校長が推進する画一化された授業スタイル(授業の目標設定、パフォーマンス課題、学び合いづくり、振り返り、自己評価)にやりづらさを感じられたのではないか。また、この授業スタイル推進の中心となっている研究主任は大変そうである。

● 授業記録は誰のため？何のため？—B中学校

特別支援学級の監査において不備を指摘されたことから、校長が特別支援学級の全クラスに授業記録を残すよう言い出した。授業ごとに何ができるようになったかコメントを残すような細かいもの。当初、4月からと言われ、忙しいことを訴えたら、では2学期からと言われ、それをほぼ作ったと思ったら、11月からと言われた。監査の不備内容と授業記録が関係があるのか、そもそも授業記録は法的に書かなければいけないものなのか、いつから書くのか、コロコロ変わって校長の気分で決まるのか、疑問だらけである。

● パワハラは職場をダメにしてしまう—C中学校

校長が主任級の先生を個別に校長室に呼び、生徒指導のことなどで大きな声を出して指導している。そのことでやる気を無くしている主任の先生が複数いる。U先生は道徳担当という立場を利用して、「今の職場は、安心して働くことができる職場か？」のアンケートを事前に行い、その結果を使って校内研修を行った。実際のアンケートには、不満の回答も多く、管理職について、また、働き方についてびっしりとたくさん記入した先生もいた。

● 特支の多くの書類、免許外教科が大きな負担—D中学校

学校は落ち着いている。休んでいる先生もいない。上手く回転している要因をあげるとすれば、先生たちが協力的なこととフットワークが軽いことか。特別支援(肢体不自由)の介助の先生はいるが、昇降機の操作などで、もしもの事故を考えるともう一人ほしいと思う。また、特別支援関係の提出書類(個別の指導計画=毎学期、年間指導計画、教科書関係、)の細かさ、多さは相変わらずだし、作成し提出したところで実際には役に立たないものだ。特別支援学級においては、自分の専門教科以外を2教科教えている。先生には負担が増えるとともに生徒には不誠実な仕組みである。

● 持ち帰れない仕事が終わらない時はいったいどうすれば？—E中学校

音楽の先生が辞められたため、空白期間が1ヶ月程度あったが、自習、他教科振替、合唱祭の取り組みで埋めた。生徒会会計の仕事を担当しているが、勤務時間内に終わりきらない。残って処理しようとするれば職場が閉まる時間が来る。持ち帰ることはできない。そんな仕事が、いつまでも気になりながら貯まっている。校務補助員さん、スクールサポートさんがもっとほしい。特別支援学級において、専門教科ではない教科の職業家庭と社会を教えている。

● 画一的な「職員室文化」が息苦しさを生み出す—F小学校

児童と親しく会話していた校務補助員さんが、校長から「児童にとっては同じ先生なんだから、甘くしないでください。」と強く言われていた。管理者としての力量が透けて見える話だ。

● 急速なタブレット導入の功罪—G中学校

学年の授業が落ち着かない。授業開始時にパソコンの勝手な使用や休憩時間から継続してのゲームに指導が入りにくい。複数の教科ではパソコンなしの授業に切り替えようとしている。チョークと黒板、教科書とノート、プリント、大型モニターを中心での授業。

● 穴を閉じる見通しはあるのか—H中学校

病休者が相次ぎ、授業に穴があきっぱなし。特定の教科では期末試験前もずっと自習ばかりのまま試験に入った。校長もフル稼働しているが穴を埋めるには程遠い。子どもたちの学力と学校生活（荒れ）両面での不安が広がっている。この事態を父母・保護者はどう思っているだろうか？

お困りのこと、
ご相談など、
ご連絡ください。
おうかがいします！

福山地区労会議が秋の自治体キャラバンを実施

■ 国の教育予算を増やして高校授業料無償化と給付奨学金制度の確立を！

■ 学校給食の無償化を！

■ 自衛隊募集への募集対象者情報提供をやめて！

福山地区労会議は11月7日（火）、秋の自治体キャラバンを実施しました。キャラバンには全教福山から北川書記長が参加し、教育にかかわる切実な課題を要請・陳情しました。

神石高原町では総務課課長と健康衛生課課長が対応しました。同町は、県内で唯一給食が無償でしたが、2年前にやめて、子どもに関わる他の部分を充実させているとのことでした。人口減少で過疎化が進み、医療費の高校卒業までの補助、移住者への補助金などの施策を展開しています。

各自治体では、「国に対して教育予算を増やして高校授業料無償化と給付奨学金制度の確立を求めてもらいたい」などを訴えました。



中藤議長（左）—神石高原町

当面の予定

12月

- 7（木）県労連第3回幹事会（18：00 オンライン）
- 8（金）広島県春闘共闘結成総会（18：30 ロードビル&オンライン）
- 12（火）子どもと教育を守る福山市民の会事務局会議（19：00 書記局）
- 18（月）クレスコを読む会（19：00 オンライン）
- 19（火）全教広島、共済担当者会議（19：00 オンライン）
- 21（木）全教広島執行委員会（19：00 オンライン）

